

## 岡部素道著『臨床鍼灸治療学』について

周防 一平, 小田口 浩, 花輪 壽彦

北里大学東洋医学総合研究所

【緒言】岡部素道の鍼灸関係著書として『鍼灸経絡治療』（續文堂，1974）『鍼灸治療の真髓—経絡治療五十年』（續文堂，1983）はよく知られているが、『臨床鍼灸治療学』についてはほとんど知られていない。本発表では『臨床鍼灸治療学』の書誌，内容，成立背景について報告する。

【書誌】『臨床鍼灸治療学』は全2巻からなる謄写印刷による本。発行所は古典医術研究会，第1巻は昭和24年3月5日発行，第2巻は昭和25年1月20日発行。第2巻に，第3巻6月発行予定，第4巻11月発行予定の記載があるが，3，4巻は発行されなかったようである。1，2巻共に奥付に「会員頒布（非売品）」とあり，一般に販売されたものではないことがわかる。

【内容】第1巻の構成は以下の通り。緒言，第一章 診断学総論，第二章 鍼灸療法診断の実際（一，西洋医学の診断法と鍼灸療法の診断法，二，鍼灸療法の診断法，三，四診の概要）第三章 灸療の方法（一，艾の良否，二，艾の大小及び壮数，三，灸療のドーゼ，四，有熱者の灸療，五，灸療上の注意，六，灸療を禁ずべき場合，七，灸療の適応症及び不適応症），第四章 鍼灸の適応症，第五章 疼痛（腰痛，坐骨神経痛，肋間神経痛，顔面部の疼痛，後頭神経痛，膊神経痛）。

第2巻の構成は以下の通り。第一章 鍼術の総論（一，鍼の種類及びその特徴，二，最も多く使用する鍼，三，鍼の金質による使用法及び指示適用，四，鍼尖の種類とその特徴，五，刺鍼法，六，刺鍼の手技及びその方法，七，抜鍼困難の処置，八，鍼の折れた時の処置，九，刺鍼時の注意事項，一〇，鍼の禁忌の部位及び場合，一一，虚型と実型及び寒と熱，一二，虚实による鍼のドーゼ，一三，散鍼の方法，一四，置鍼術の指示と方法，一五，温鍼に就いて，一六，証決定の方法），第二章（一）経絡の主なる症候（二）経絡の虚实による主なる取穴例，第三章 治療篇（風邪，咳嗽，呼吸困難，頭痛，肩こり，冷え症，発狂，癲癩，めまい，ヒステリー，健忘，黄疸，痔，食傷，無力性便秘，胃拡張，膀胱麻痺，腹部疼痛，睡眠不全，食欲不振，下痢，嘔吐，夜尿症，浮腫，鼻疾患，急性鼻カタル，慢性鼻カタル，蓄膿症，鼻出血，中耳炎，耳鳴，耳聾，眼疾，歯痛，歯槽膿漏，瘀血，出血，衄血，咯血，吐血，下血，腎臓・膀胱及び尿道出血，歯齦の出血，子宮出血，急性関節ロイマチス，慢性関節ロイマチス）。

両者ともに経絡治療についてのみではなく，鍼灸治療一般についての記載されていた。また、『鍼灸経絡治療』と本書を比較すると，構成，本文等一致する部分が多く，本書を基に『鍼灸経絡治療』が著されたことがわかる。

【成立背景】第1巻に「本稿は昨秋九月，東京都武蔵小金井の日本青年館別館浴恩館で開かれた第一回再教育講師養成講習会に於て講義したものを主としてこれに多少の増補訂正を加えたものであるが，このたび東京都連主催の再教育が行われるに際し必要に迫られて取り急ぎまとめたものである」とある。当時の時代背景として，GHQ旋風の結果，GHQ及び厚生省の出した鍼灸の存続条件中に「教育制度の確立（既得権者の再教育）」という項目があり，日本鍼灸按摩マッサージ師会連盟主催の下，鍼灸師の再教育講習会が開催されていた。これらのことから，日本鍼灸按摩マッサージ師会連盟東京都連合会主催の再教育講習会用テキストとして，本書が著された可能性が高い。